

(様式1)

自己評価票

作成日 平成22 年11月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900518		
法人名	有限会社 万葉		
事業所名	グループホーム山吹の里	ユニット名	ちどり
所在地	〒 315 - 0014 石岡市月岡1582-22		
自己評価作成日	平成 22年11月 18 日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設内の自然環境を生かしての野菜の栽培をしており、入居者様と一緒に収穫し、みんなで出したアイデアで食卓を季節の野菜たちで彩っています。
理念にも掲げているように、「自分らしさ」「その人らしさ」を日々、実現出来る支援をスタッフ1人1人が考え、日々の生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週の全体朝礼で理念の提唱をしている。入居者様、ご家族様との面会する場所など掲示しており、「自分らしく」「その人らしく」を尊重しながら生活している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年開催している納涼祭には、近所の住民、消防団に参加して頂き、盆踊り、バーベキューなど楽しめました。12月には、幼稚園の園児による慰問も予定しており、入居者様も楽しみにしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方の悩みや、困りごとをボランティアで来訪された時に、聞くように心がけ、紹介できる社会資源の提供に心がけている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。スタッフが研修して学んだこと、介護に携わっての感想などを発表する機会を作り、交流をして、意見の交換にはかっている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進会議の参加、ホームで行なわれる行事に参加して頂いている。入居後のフォローもして、情報交換を行なっている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議などで、「身体拘束」について話し合いをして意見交換をしている。身体拘束のポスターをスタッフも、入居者様も見れる位置に貼ってある。居室には鍵が無く、日中は玄関は施錠せず、出入りは自由である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待防止法の研修を受講している。その題材で、内部研修を行い、虐待には様々な種類があることを伝え、理解を深めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度が必要になった場合、市町村・関係機関と連携した対応をする準備は整っている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は、契約書・重要事項説明等の説明を行なっている。 入居後不明な点が出てきた際はいつでも質問してもらい、答えるようにしている。 要介護認定の変更によつての料金の変更も、その都度説明を行っている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。 ご家族等から気軽に意見や要望を聞けるよう電話や面会時も話を聞くようにしている。 入居の際に、重要事項説明書には、苦情相談窓口や第三者機関を明示している。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者には、おりにふれスタッフとの個別や提案を吸い上げている。 月に1度の全体会議や「気づきチェック」などを見返して、意見の交換や情報の共有をはかっている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己チェック表を作成して、本人・管理者・代表の評価を行い、そのチェック表をもとに個別の面接を行い話し合い、悩みや疑問などを聞き、ストレス解消に努め、穏やかな雰囲気提供を行なうようにしている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加できる機会を提供している。業務中にも、技術・知識を伝えるようにしてスタッフ同士で話し合う機会もつくれるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域3事業所で、交換研修を行い、交流を深めると共に、サービスの質の向上を目指している。様々な研修に参加して意見の交換を行なっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学を随時受け付けている。体験入居も行なっており、入居する前の施設の雰囲気を感じて頂いている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様と共に、ご家族様にも、施設内を分かりやすく説明しています。「介護保険サービス」についても分かりやすく説明し、後日不明な点については、いつでも質問してもらい答えるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込みの際に、既往歴、身体状況や家族環境等により、関係機関との連絡を図っている。家族との連絡を密にしながら、新しい生活に慣れて頂けるように支援している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者後、ひとりひとりの得意なことを把握して、一緒に行いスタッフは様々なことを教えて頂く機会をつくっている。笑顔が多く見られる日々を提供するように心がけている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの家庭生活での暮らし方や接し方、などをお聞きして、出来ることは継続して行なうようにして、家族とご本人様との絆を大切にしている。面会時にはゆっくり過ごす場所を提供しており、請求書の送付の際に「万葉だより」施設便り送っている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問・電話を取り次いでいる。今までの関係が途絶えないように支援し、家族の写真などを部屋に飾っている入居者様もいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係をひとりひとりのスタッフが理解し、「その人らしさ」を忘れずに、個別ケアを行なっている。集団行動を苦手とする入居者様には、その都度、スタッフの介入をして声掛けを行なっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居の際、ホームでの生活などが分かる「介護サマリー」などを作成し、情報を提供している。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今まで歩んできた生活史をお聞きし、把握して本人様が少しでもホームでの生活に慣れて頂けるようスタッフ間でも情報の共有を図っており、意思疎通の困難な入居者様には、簡単な言葉掛けで話しかけて、顔の表情などで読み取るようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活史や嗜好・馴染みの関係をお聞きしている。 前のサービスからのサマリーやソーシャルワーカーなどに状態・対応などを聞き把握している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昔の仕事や得意なことを把握しており、その人の「今」出来ることを日々考えケアにあたり、生活している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを使用して、モニタリング、担当者会議を行なっている。 申し送りの時間などを利用して情報交換を行なっている。入居者様やご家族の要望を聞き、見直しができる習慣をつくっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録などは、なるべく客観的に記入することをすすめている。 「申し送りノート」を使用して、誰もが分かりやすいように説明して記入するように心がけている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスでは、不十分な場合はボランティアなどの協力をお願いしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会などの会議を利用して地域包括支援センターや民生委員の方々から、意見や指導を頂いている。 外出などの機会をもつように努めている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度、施設かかりつけ医による往診あり。かかりつけ医の変更に関しては、紹介状の作成をしてもらっている。 その他の医療機関や通院・受診に関しては家族と連携をして行なっている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護をうけており、体調や疑問に思ったことを伝え、相談や指導をして頂いている。 その内容は、記録し、共有し、保存している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、施設での生活や対応を「介護サマリー」を利用して病院側に伝えている。入院中は、家族・病院と連絡を密にとり、状況の把握につとめている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望書を記入して頂いている。状態の把握は、かかりつけ医や訪問看護師に助言、相談を受けており、「いざ」と言うとき慌てないように話し合いや方針を共有している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の研修を受けている。 マニュアルを作成して、いつでも閲覧が出来るようにしてある。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	発炎筒を使つての煙の流れや、消火器の使い方、入居者様と一緒に非難訓練など、施設内で定期的に行なっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様が呼ばれ方や言葉遣いなど、心がけている。 目線を合わせての言葉かけを大切にしている。様々な介助の場面で羞恥心に配慮して言葉かけを行なっている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面での意思決定を尋ねるようにしている。意思疎通が難しい入居者に対しても、常に声掛けを行い、表情や身体を見るようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」を忘れずに、本人の気分や体調に合わせて生活を提供している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びなどは、スタッフの独断で行なうのではなく、季節などを考慮して入居者と必ず相談しながら服を選んでいる。 衣替えなどは、一緒に行なうようにしている。2ヶ月に一度、理美容を利用している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お膳出し・食器拭きなど出来ることはお願いしている。 畑で収穫した野菜を皆でアイディアを出し合って、食卓に並べるようにしている。 調理方法についてはアドバイスを頂いている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の摂取量はチェック表などを使用して、スタッフが把握できるようにしている。 誤嚥のある危険がある入居者様には、味を損なわないように、とろみを使用している。 介助も、ペースを合わせてゆっくりとした雰囲気を提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔ケアを行なっている。 使用する道具に関しては、その人に適したものを使用している。 口腔内の食べ残し、残薬も確認して行なっている。 なるべく、洗面台で行なうように声掛けを行なっている

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している入居者様でも、定時の誘導を心がけており、トイレでの排泄を心がけている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使い、状態の把握をしている。チェック表には時間や最終排便の記入をしており、薬を服用する前に、水分や食事、運動などで排便を促せるようにしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴を行なっている。体調に合わせて、変更している。入浴の出来ない入居者様には、足浴・手浴、清拭にて対応して、さっぱりして頂く。本人の希望に、合わせるようにしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室への誘導も、ご本人の意思に任せている。ゆったりとした雰囲気でご過ごせるように援助している。睡眠時間や、状況を日勤者に申し送るようにしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に、服薬している薬の情報も一緒に綴じてあり、業務日誌にも現在服用している薬の一覧表がある。薬の変更の場合は、申し送りやノートなどを使い共有している。投与に関しては、ダブルチェックを日頃から心がけている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを聞いて、お聞きして支援に役立てている。その人の「やりがい」を日々見つけることも大切にしている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	10月には、花木センターへドライブへ出掛けました。秋には、栗拾いなどを行い、美味しいご飯にして召し上がりました。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭は、個人管理を行なっておらず、事務所管理としている。</p> <p>個人の購入においては、その都度支払いをして収支を記録し、家族へ月ごとに報告している。高額な物に関しては、あらかじめ家族に報告している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの手紙は、本人に渡している。希望によっては、飾ったりファイルしている。電話の取次ぎをその都度行なっている。現在、ご自分で手紙を書かれている方はいない。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールやユニットでも季節に合わせて製作物を作って掲示しており、製作物も入居者様と一緒に作成している。</p> <p>散歩へ行き、草花を取ってきて、室内やテーブルなどに飾るようにしている。</p> <p>畑の野菜を提供して、季節感を味わえるようにしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者様は、それぞれ個室なので、おひとりになりたい場合は、居室で休まっている。ホールには、ソファを設置して、皆様でテレビを見たり、体操する場所として様々な場面で利用している。</p> <p>転倒防止のため、フラットにしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使われていた家具や遺影、家族の写真などをお持ちになっている方もいる。</p> <p>「自分らしい」「その人らしい」居室をスタッフ相談しながら作り、提供している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>現在、既存の設置で不便なく過ごされている。そのため、個別の設備・道具は活用していない。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない